

トントンゴゴ木の名人！広島菜を守る像！！— A 表現(2) —

～広島菜を守りたいと思う気持ちを木材で表現する～

広島市立東野小学校 鳥羽千鶴

- 1 日時・場所 10月〇日()、 図画工作室
- 2 学年・学級 第3学年2組 組(男子17名 女子15名)
- 3 題材について

○ 児童観

本学級の児童は、工作活動に積極的で、新しい題材に興味を示す。自分の思い描いたものをかたちにしようと一生懸命に取り組む児童が多い。しかし、なかなか発想が浮かばず手が止まったり、集中力が切れ途中から手遊びを始めてしまったりする児童がいる。技能面においては、はさみを使ったり、のりやテープで接着したりするなど技能の基礎は身に付いている。しかし、本題材では、のこぎりを使って木を切ったり、金槌を使って釘を打ち込んだりする活動であり、のこぎりや金槌を扱うのが初めてだという児童が多いと予想される。

○ 題材観

本題材は、自分たちで大切に育てた広島菜を虫たちから守るために、広島菜の守り神をつくろうという題材である。本校では、第3学年になると総合的な学習の時間に、「広島菜をつくろう」という単元で、広島菜づくりを体験する。種を蒔くところから収穫するまでを通して学習することで、広島菜にも命があるということを感じ、命の大切さを知る。その途中の過程において、自分たちの大切な広島菜を虫から守ろうという活動を通して、広島菜を大切に育てようとする気持ちを育んでいく機会にとこの題材を考えた。木材を扱うことによさとしては、外の掲示に強いことにある。そこで木材を扱うこの題材によって、のこぎりや金槌を使って木を切ったり、つないだりという技能面の力を児童に付けていきたい。

○ 指導観

指導に当たっては、自分の思いに合ったものを表すためにも、用具の正しい使い方に慣れるとともに安全に十分配慮することが必要である。児童が木とのふれあいを通していく中で、「切る」「組み立てる」「並べる」「積む」などの活動が予想されるので、形や大きさや長さなど様々な木を児童の目の前に置き、すぐに手にとって思い思いの活動ができるようにする。支援の必要な児童には、組み立てるにしても、全て釘を使ってつなぐことは難しいので、児童の発想がくじけることなくできるように、すぐに接合できるものを用意しておき、活動がスムーズに行われるように工夫する。また、本題材では、数多くの木切れを並べる、重ねる、組み立てるという行為を通して、木の持つ特性を五感で感じながら、十分楽しむことにある。木材をのこぎりで切り、釘を何本も木切れに打ち込むことに熱中しながら、次第に自分なりの表し方を見つけてほしい。

4 題材の目標

- 表したいことや用途などを考えながら、形や材料、用具の特徴などを生かし、見通しをもって自分なりの表し方を工夫し、友だちとよさを認め合う。

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	広島菜を守りたいという気持ちを持ち、感じたこと、想像したことを表そうと意欲をもって取り組む。	表したいことや用途などを考えながら、形や材料などを生かし、見通しをもって自分なりの表し方を構想する。	気持ちに合わせて材料や用具の特徴を生かしたり、思考錯誤したりしながら、表し方を工夫している。	自分や友だちの作品を見合うことや話し合いを楽しみ、表現や工夫のよさ、面白さをとらえる。
具体的評価規準	様々な木切れを使って木の持つ特性を楽しみながら、自分の心や感情を表すことに取り組もうとしている。	自分の表したい気持ちのイメージが表せるように、自分で材料を選んだり組み合わせたりして、形をいろいろ試しながら、表し方を考えている。	自分の気持ちが表れるように、材料の特徴を生かしながら、のこぎりや金槌を正しく使って表し方を工夫している。	自他の作品を見たり、話し合ったりして、形や表し方の工夫を見つけ、気持ちや感じを想像し、お互いの表現の意図をとらえている。

6 指導と評価の計画（全5時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		観点・評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する状況への 手だて
第一次 1	<ul style="list-style-type: none"> 金槌やのこぎりの使い方、木の切り方、釘の打ち方を知る。 木切りや釘打ちを試しながら作りたいもののイメージを広げる。 	ア 活動の様子を観察 イ 活動の様子を観察・作品	<ul style="list-style-type: none"> 用具を正しく安全に使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導の時間を十分に設ける。
第二次 1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> つくりたいものに合わせ、釘の打ち方、釘の並べ方、木切れのつなぎ方をどのように工夫するか考えて表現する。 	ア 児童の様子を観察 活動の様子を観察 イ 活動の様子を観察・作品 ウ 活動の様子を観察	<ul style="list-style-type: none"> 釘を奥まで打ち込む、途中まで打つなど自分なりに構想を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の木切れに触れ、感触を確かめさせる。 友達との交流を通して、組み合わせのアイデアを見付けさせる。 自信をもって取り組むことができるように、声かけをしたり、相談にのったりする。
第三次 1	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品や友人の作品のよさについて話し合う。 	エ 鑑賞カード	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品の見てもらいたいところを伝え、友人の作品の面白いところや気に入ったところを共感的に伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体ではなく、部分に注目するように促す。

7 本時の目標

- (図画工作) 自分の気持ちが表れるように、材料の特徴を生かしながら、のこぎりや金槌を正しく使って表し方を工夫する。

8 準備物

- (指導者)木切れ、のこぎり、金槌、釘、ボンド、布、モールなど
- (児童)ボンド、絵の具、はさみなど

9 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価規準・評価方法
1. 前時の活動を振り返り、活動の意 味を確認する。 2. 本時のめあてを知る。		○意欲を持って、積極的に取り組もう とする。(ア)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">木にくぎをうったり、木を切ったりと工夫しながら、自分の思い描いた守りぞうを工夫しながらつくろう。</div>		
3. 表現する。 ・表したいものを考えながら、自分な りに表し方を工夫してつくる。	・形や大きさや長さなど様々な木を児 童の目の前に置き、すぐに手にとって 思い思いの活動ができるようにする。 ・なかなか取りかかれぬ児童や集中 できない児童には、他の児童の作品も 参考にしてみるように声をかけたり、 児童の気持ちを引き出すために相談に のったりする。 ・自分の作品に自信がもてるように、 個々のよさを認めていく。	○気持ちに合わせて材料や用具の特徴 を生かしたり、思考錯誤したりしなが ら、表し方を工夫している。(ウ)
4. 後片付けをする。 5. 次時の活動について知る。	・自分たちの使った教室を責任をもつ て片付けるように声をかける。 ・引き続き心を込めて作品に向き合う 気持ちを大切にさせるようにする。	